

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/1階)

事業所番号	2793100146		
法人名	株式会社ジャパンメディケアネット		
事業所名	グループホームつながり城北		
所在地	大阪市旭区赤川1-3-24		
自己評価作成日	令和7年2月27日	評価結果市町村受理日	令和7年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=2793100146-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和7年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居していて【楽しむ】をコンセプトにしている為、毎月行事計画に沿ったレクリエーションを実施し、夏・冬には大型レクを実施している。また、毎年4月には全入居者、家族、関係者と日帰りバス旅行を行っており普段とは違う場所で食事を楽しんで頂いている。その他、食材の買い出しや希望があれば職員付き添いの下、外出しておられるだけストレスなく施設生活が送れるように努めている。職員に関しては区内の他事業所と連携を図り、職員同士が交流できる場を設けている。また外部研修を活用し、知識・技術の向上を図り、より良いサービスを提供できるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は1984年に設立され、当事業所は2018年に3ユニットで開設された。区内のグループホームとの交流は盛んで、月1回の連絡会に管理者が参加し、2か月に1回の一般職員交流会にも交代で参加しており、交換研修も行って、職員は希望する事業所で実例を学んで実践に活かしている。地域との交流も盛んで、区民祭り・地域の祭りに参加し、夏祭りには神輿が玄関先まで来訪し、毎月第2日曜日には事業所で認知症カフェを開催し、ハロウィンには施設を開放して子どもなど約50名の来客があり、お菓子をプレゼントしている。大型レクリエーションとして、集会場での納涼祭・夏祭りや日帰りバスツアーを実施し、近くの菖蒲園にも出掛けている。家族には、ラインの写真や動画で利用者の様子や日々のメニューを伝え、「職員は明るく元気に笑顔で接してくれる」と感謝されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【本評価結果は、3ユニット総合の外部評価結果である】

自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念は見える場所に貼り、共有できるようにしている。	事業所の基本理念「慣れ親しんだ場所で、ひとりひとりが、その人らしさを発揮できるように支援します。豊かな人間関係を保ち支え暮らしていけるよう(入居者とのつながり、家族とのつながり、地域とのつながり)を大切にします。」をパンフレットに掲載し、人事理念「助け合い、認め合い、許し合う」と共に事業計画に記載し周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育園の園児との交流、地域の祭りに参加し交流している。	町会に加入し、町会長や他事業所・地域包括支援センターなどから地域の情報を得ている。区民祭り・地域の祭りに利用者と共に参加し、夏祭りには神輿が玄関先まで来訪してくれる。毎月第2日曜日に事業所で認知症カフェを開催し、ハロウィンには子ども達との交流目的で施設を開放して約50名の来客があり、お菓子をプレゼントしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを行う事で今後地域の人々にも理解して頂けると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期の会議により評価への取り組み状況等の報告や話し合いは出来ている。	会議は、奇数月の第4火曜日16時から近くの集会場で開催し、家族・後見人・町会長兼民生委員・地域包括支援センター職員の参加を得ている。会議では、入居状況・活動(行事・研修・委員会・会議他)・事故発生の各報告を行い、今後の予定を知らせて意見交換をしている。議事録は全家族に配付し、外部評価結果と共に玄関に置いて開示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括の方にアドバイスや情報を頂き運営している。	区の福祉課には折に触れて相談し、生活支援課とは十数名の生活保護受給者の申請などで関係し、ケースワーカーが年2回来訪している。地域包括支援センターには、認知症カフェや交換研修会について相談している。月1回の区グループホーム連絡会には管理者が参加し、2か月に1回の一般職員交流会にも交代で参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の社内研修により正しい知識を得、また定期の委員会を開催している。意見交換を行う事により身体拘束をしないケアに取り組むことが出来ている。	「身体拘束等適正化のための指針」を作成し、3か月毎の委員会と年2回の研修を実施している。1階玄関とエレベータは行き来自由だが、各ユニット入口はナンバーロックしており、外に出たい利用者には職員が付き添って散歩している。家族の同意を得て、安全確保のため居室に人感センサーを設置している人が数名居る。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の社内研修の実施。毎月開催される委員会での報告により虐待防止に努める事が出来ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまりできていると思わない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等、職員は行っていないが利用者や家族等の不安や疑問には説明できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議により意見交換、反映できている。	家族の意見は、運営推進会議・面会時(制限無し)・介護計画作成時・電話・ラインなどで聞いている。事業所便り「つながり」に利用者全員の写真を載せ、ほとんどの家族が登録しているラインの写真や動画で、利用者が毎日外出している様子などを伝え、日々のメニュー写真もスマホアプリで開示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の開催により意見を言ったり提案を聞き、反映することが出来ている。	毎月の全体会議・フロア会議で職員の意見を聞き、不参加者からも事前に意見を収集している。リーダー会議に法人代表が参加して意見を聞く機会があり、年2回の職員面談でも聞いている、身体拘束適正化・虐待防止・事故防止・災害対策・感染症対策・レクレーション・SNSの各委員会と、物品・おむつ・おやつ・環境整備の各担当を設け、職員は分担して運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要な時には話せる場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修に積極的に受講させてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われているグループホーム連絡会に職員も順番に参加させてもらっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のコミュニケーションや会話の中で本人の困っている事、不安な事に耳を傾けスタッフとの関係づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階ではご家族様とお会いできていない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同様		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話や日常の作業を一緒に行う事により暮らしを共にする者同士の関係を築く事ができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフとの話し合いや家族様の話を聞き本人を支えていく関係を築く様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所等あれば途切れないよう支援に努めている。	利用者のかつての店のお客や親戚、近所の人、お世話になった地域包括支援センター職員などの訪問があり、自宅に出掛ける人も居る。編み物・読書・レコード鑑賞を継続する利用者も居る。携帯電話の所持や電話・年賀状の取次ぎを支援し、入居後に仲良くなった利用者同士が、相席したり相互の居室で過ごすのを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の変更やスタッフからの声掛けをすることにより利用者同士が関わり合い支え合えるような支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了はほぼありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話やコミュニケーションを取り、意向の把握に努めている。	入居時に把握した利用者の希望・意向は受付相談シート・フェイスシートに記載し、入居後は個人記録やフェイスシート追記で職員間で共有している。意向を表出しにくい人は、問い掛けへの反応、二者択一の提示や家族から把握している。希望に沿って、大正琴の演奏、バス旅行でのビールの提供や、利用者3名の分担表による家事参加を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや利用者と話をする事によりこれまでの暮らしの把握に努める事が出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の言動を観察することにより現状の把握に努めることが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議にてケアマネージャーや看護師に参加していただき意見やアイデアを出し考えている。	アセスメントシート・個人記録・申し送りノート・モニタリングやフロア会議でのカンファレンスなどを基に、ケアマネージャーが面会時や電話で家族の意見も聞いて介護計画を作成している。計画は長期目標1年・短期目標3か月とし、3か月毎にモニタリングしてサービス担当者会議(管理者・ケアマネージャー・リーダー参加)を開き、3か月毎に見直している。	サービス計画書の援助内容は、訪問診療・訪問看護・服薬支援・訪問歯科・栄養管理・歩行訓練のみの記載に止まっている。今後は、食事・排泄・入浴・外出・役割・楽しみ事なども含めたケア全般について、具体的に援助内容を設定し取り組むことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫をスタッフ間で話しやすい雰囲気作りを行い情報提供することができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のカンファレンスやフロア会議等で話し合い取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しんで頂ける様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診や毎週歯科往診を受診されている。	利用者は、連携医療医3者(内科・精神科)による月2回の訪問診療と、週1回の歯科医の訪問診療を受けている。皮膚科・眼科・整形外科については家族対応を旨とするが、概ね事業所同行の受診を現況としている。常勤看護師と2か所の訪問看護師との連携により、適切な健康管理が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師や訪問看護師と日々情報共有ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の病院から情報が入ったらスタッフで共有し、退院が決まれば元の生活にできるだけ早く戻れるようにカンファレンスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あまりできていると思えないが今後行っていきたい。	重度化や終末期対応については、入居時の指針説明で同意を得ており、昨夏に1人の看取りを経験している。その後、ターミナルケアについて全職員が書面研修を受け、レポートを提出している。現在2名の看取り希望があり、日常から見えてきたその人らしさを大事にした終末期対応を心掛け、家族の希望にも沿ったケアに努めたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な社内研修はあるがスタッフ全員が実践力を身に付けていけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期の社内研修において勉強している。	夜間想定を含めた年2回の避難訓練と、動画による災害時対応の研修を行っている。災害対策委員会(管理者・各階リーダー3名)による3か月毎のBCP(事業継続計画)見直しと、避難経路の確認、玄関横自販機の災害時対応への変更(業者協力)を実践している。備蓄品に関して、量・内容共に検討中である。	3階建ての居住環境、非常勤職者の勤務状況、利用者の状態などの諸事情を勘案しての自然災害に備えた複数回の避難訓練、全インフラ停止想定での生活実験について検討を期待する。災害発生時における更なる地域との協力体制強化も期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修を行い常に意識し、言葉かけを行っている。	事業所理念と人事理念「助け合い、認め合い、許し合い」の実践の根底は、利用者ひとり一人の人格尊重にあると意識し、日常での親しさが利用者の依存度に繋がること、慣れた言葉遣いがぞんざいなもの威圧的なものになりがちなこと、などに注意し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えや飲み物であったりこちらで決めるのではなく利用者様に決めて頂いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りその利用者様の希望に沿って支援することが出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様から訴えがあれば支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事に目を向け利用者と一緒に準備片付けを行っている。	献立付配食(クックチル)を再加熱し、盛り付けを工夫し提供している。ご飯と汁物は各フロアで作っており、持病対応の塩加減、好みの刻み加減に配慮している。イベント食は、利用者の希望により手作りしたり配食業者に依頼し、月1回のおやつレクリーションで桜餅などを作り楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の助言や日々の状態を観察し支援出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの利用者にあった口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行う事が出来ている。退院されたときはオムツ対応の入居者様がトイレでの排泄ができるようになった。	フロアーにより利用者の排泄の自立度の差はあるが、必要に応じ各人のパターンに沿って、また様子を見ての誘導で、極力トイレでの排泄に努めている。放尿・失禁を細かく記録し、誘導機会の工夫など回数減に向けての努力を継続している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スタッフや看護師と情報交換し、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人に合った入浴介助、また体調や気分に合わせて時間の変更。日程変更等臨機応変に対応している。	入浴は週2回を基本にし、拒否の人や週1回希望の人には、それなりの対応での支援がある。2人介助も含めてほぼ9割の人が浴槽に浸かり、シャワー浴の人も居る中で、何れも安全優位で会話も楽しみにした入浴支援がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様に依じて休憩時間を設けたり居室内の明るさ等に工夫し気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師、薬局と連携を取り、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に依じて出来る事を見つけ気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に依って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日や季節に依じた外出、散歩に加え、年に1回日帰り旅行を家族の方と協力しながら実施している。	利用者は直ぐ目の小公園への散歩の他、各フロア毎に毎日曜日に1週間分の汁物の具材調達に近くのスーパーに出掛けている。ほぼ3割の人が家族との外食・外泊がある。昨年度より日帰りバス旅行を試み、今月6日に、家族・医師・看護師同伴の総勢50名ほどで信貴山へのバス旅行を計画しており、体調により1名のみ留守居となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に依じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる利用者には支援しているがほぼいらっしやらない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が望まれる場合は支援行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごしていただける様室温の調整やお好きな写真、絵を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。	採光良く、移動に支障のないテーブルやソファの配置があるリビング兼食堂、居室戸口の名札の飾り、職員手作りの掛軸に貼られた習字や行事での笑顔満載の写真と季節に合わせた大きな貼り絵のある廊下など、各フロア毎に利用者と職員の創意工夫のある暮らしの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりひとりの利用者を見て席の移動等行い工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。入居時には使い慣れた家具の持ち込み、本人の好きな物を持ってきていただいている。	ベッドと小幅な洋服箆箆に洗面台が既設され、利用者は使い慣れた調度品と必要な収納ケース・ハンガーラック・家族写真・仏壇・趣味の小物・レコードとプレイヤーなどを持ち込んで、往年のその人を窺わせる居心地の良いマイルームとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今までできていたことは継続して行って頂くような環境作りと福祉用具等を使用し安全な生活を送って頂ける様支援している。		